

新にいがた

いっせい地方選 何としても勝利を

2015年2月22日(日) 第1809号

発行所 新にいがた 長岡市曲新町1-12-14 ☎025(247)6366
毎月第4日曜日 定価150円(送料50円)1966年7月22日 第三種郵便物認可

女性後援会が新潟市で集中宣伝



元氣よく宣伝した女性後援会=14日、新潟市中央区

4月の県議選・市議選でなんとしても勝利しよう、新潟県と新潟市の女性後援会は14、15の両日、市内中央区、東区、西区でいっせいハンドマイク宣伝に取り組みました。のべ93人が参加、166カ所で行った。多くの激励が寄せられました。

窓から顔出して聞いている人、道行く人が「共産党応援してるよ」と話し、ヒラを受

け取り「躍進の共産党ですわ」と語る人も。元創価学会員は「共産党はウソつかない。頑張って」と激励しました。

市場で通りすがりの人が2000円をカンパ、出店の団子屋さんでマイクを握り、「日本共産党をよろしく」と訴える場面もありました。「県議選、市議選もぜひ頑張ってください」と声をかける人もいました。



激励に応える(左から)服部、竹島、市田、笠井、諸橋、細井の各氏=8日、長岡市

長岡市 市田副委員長迎えつどい

日本共産党中越地区委員会と長岡市後援会は8日、市田忠義副委員長を迎え、市内でいっせい地方選躍進をめざす新春のつどいを開き、450人が参加しました。

市田氏は、総選挙での日本共産党の躍進は「自共対決」、国民が主人公の政治の新しい幕開けを告げるもので、躍進の土台になったのは対決・提案・共

同を貫く新しい綱領路線、国民と草の根で結びつく党づくりにあつたと強調。いっせい選挙では風頼みはないことを肝に銘じながら、党づくりに力を注ぎ、第3の躍進を本格的流れにすることを訴えました。

竹島良子県議候補(現職)が「民生費全国最下位の県政で、遅れている医療・福祉を充実させるために、道半ばの仕事で引き続き働かせてほしい」と訴えました。

細井良雄候補は「公明党の県議候補が激しく活動している。負けないで全集中落で宣伝する決意だ」と強調。諸橋虎雄候補は「平和を守り、庶民の暮らしをよくすることに燃えたい」と訴えました。



決意を述べる西澤候補

西澤候補は、安倍政権が消費税増税や農業・農協つぶし、介護報酬の削減、原発再稼働、戦争する国づくりなど、国民の願いや苦しみに寄り添わない暴走を加速させており、「暴走を止めてほしい」「政治を変えてほしい」と

西澤氏の略歴 滋賀県立彦根西高校卒、敬和学園大学卒。民青同盟新潟県委員長を歴任。14年衆院選新潟4区に立候補。党県政策委員長、青年学生部長

「と力説。笠井則雄候補は「党議員団は市民の暮らしを守るため対案を示して活動してきた。なんとしても4議席確保を」と訴えま

した。

現職と交代する服部耕一候補は「住民の声を受けとめ、しっかりと発言する議員が求められる」と訴えました。

西澤参院候補が決意表明の期待に応えたいと述べました。

西澤候補は第二に、非正規雇用・低賃金で働く多くの若者の苦しみへ寄り添い、躍進した国会議員団とも力を合わせ、正規雇用拡大と最低賃金の大幅引き上げ、奨学金制度改善など、日本の未来を担う青年・学生に希望を届けたいと訴えました。

安倍暴走止め若者に希望を

安倍暴走政治にストップを 新潟県議・市議選勝利で各地で集会



激励に応える(右から)いがらし、藤野、しぶや、なかむら、いづか氏



激励に応える、たけだ県議候補、藤野議員、平市議候補

東区

しぶや県議候補必勝

いづか・いがらし市議議席確保

新潟市東区の日本共産党と後援会は1月24日、いっせい地方選勝利をめざす新春の集いを開き、150人が参加しました。藤野保史衆院議員が激励に駆けつけました。
日本共産党は同区では、県議選(定数2)で、しぶや明治候補の勝利、市議選(定数9、前回より1減)では、いづか飯塚孝子、いがらし完二両市議の議

席確保をめざします。藤野議員は、総選挙での議席奪還は、後援会員、地方議員らの一人ひとりの奮闘のためであり、議員パツジをその瞳だと思つて国会で奮闘したいと力を込め、いっせい選挙で勝利を勝ち取るために一緒になって頑張る決意だと述べました。
しぶや候補は、東区の議席が自民と民主の2議席で、柏崎刈羽原

西区

たけだ県議候補必勝

平市議候補議席確保

発の再稼働反対を主張できないことを指摘。県民のくらしと安全を守ってほしいとの願いに応えるために、なんとしても議席を奪還したいと訴えました。
いづか、いがらし両市議候補も、定数削減のなか、必ず勝利したいと訴えました。
集いは、日本共産党県文化後援会も共催。しぶや明治さんをモデルにした小説『信濃川』

が出版されたことが紹介され、作者のなかむらみの氏があいさつ。なかむら氏は、しぶやさんに初めて会ったとき、住民に献身する活動ふりとバイタリテイに接して感動し、3年の取材を経て小説にしたと述べていました。小説に描かれている多くの魅力的な日本共産党員群像に触れ、地方選勝利の活動に生かしてもらいたいと訴えました。

新潟市西区の日本共産党と後援会は1月23日、県議選(定数3)、市議選(定数10)勝利で、たけだ勝利県議候補、平あや子市議候補の事務所開きを行い、80人が参加しました。藤野保史衆院議員が激励に駆けつけました。
立石雅昭後援会長が「安倍暴走政治から県民のくらし・平和を守る自治体を築こう。そのために、たけだ候補、平候補の議席を総力をあけて勝ち取ろう」と訴えました。
たけだ候補は「総選挙後まわりの期待をひしひし感じている。民生費最下位の新潟県で、子ども医療費助成拡充、原発廃炉、西海岸の飛砂問題に取り組むために県議会になんとしても押し上げてほしい」と訴えました。
安達哲夫坂井輪診療所長は「医療・介護で困っている人はたくさんいる。その声を行政に届けられるのは共産党しかない」と力説しました。

平候補は「医療の職場で働いた経験を生きかき、議席を引き継ぎ、力をあわせ市政を変えていきたい」と訴えました。
藤野議員は「やっぱ

正しい歴史認識を 歴協が2・11集会

新潟県歴史教育者協会と新潟市退職教職員協議会は11日、新潟市内で「2・11集会」を開き、30人が参加しました。

小林昌二・市歴史博物館館長(帝京大学教授、新潟大学名誉教授)が「古代国家の成立と天皇制」というテーマで講演しました。小林氏は、歴史認識が問題になっている現在、国の成り立ちから歴史学の最新の科学的成果を学ぶ大切さ、それをもとに「日本古代国家成立論」や「天皇制論」の現在について話しました。
小林氏は、現在の歴史学では古事記、日本書紀を作品として徹頭徹尾読み込むことが大切であり、その中で歴史的事実かどうかを吟味することが重要だと指摘。2月11日(旧正月元旦)に古代日本国が建国されたという議論はなく、その根拠は『日本書紀』の記述だ

り共産党を伸ばしてよかつたと言われる活動をしていきたい。躍進の流れを本格的にするために、県議選、市議選でも勝利しよう」と呼びかけました。

社会保障改悪許さない新たな運動を 新潟生存権裁判9周年で集会



社会保障改悪阻止の新たな運動を誓った集会=7日、新潟市

新潟生存権裁判を支援する会は7日、新潟市内で提訴9周年集会を開き、175人が参加しました。同会は社会保障改悪阻止の運動を地域から広げようと、行政、民生委員協議会、医師会、労働組合など50を超える団体に呼びかけました。

山崎栄三代代表は、最高裁で訴えは棄却されたが、10年のたたかいを力に、安倍内閣が進める社会保障改悪を許さない大運動を起こそうとあいさつしました。

大澤理尋弁護士は、最高裁は東京、福岡訴

訟では、老齢加算を生

存権としてではなく「期待的利益」とし、現実の生活条件を無視して著しく低い基準を設定するなどでない限り違法ではないとする上告棄却の不当判決文を出したうえ、新潟、広島、秋田訴訟では判決文すら出さずに「一斉門前払い」と強調しました。

大澤氏は、裁判の成果として、①老齢加算復活の運動の大きな力になった②老齢加算廃止後の厳しい生活を明らかにし、世論に訴えた③反転攻勢の手掛かりになった一ことを指

摘し、集会を基本的人権を取り戻す新たな一歩にしようと呼びかけました。

原告の山田ハルさん(95)、阿部長治さん(89)とも病気で欠席。阿部さんから「不当判決に腹の底からこみ上げる悔しさと、到底納得できない」との思いでいっぱいです。ご支援下さり感謝申し上げます」とのメッセージがありました。

集会では、板垣淑子氏(NHK大型企画センターチーフプロデューサー)が講演。板垣氏は、日本で深刻なのが600万人の独り暮らしの高齢者の問題であり、その半数、300万人が生活保護水準以下の年金収入しかないが、生活保護を受けているのは70万人ほどだと強調しました。

板垣氏は、年金引き下げ、医療や介護の負担増の中で、貯蓄もな

新潟生存権裁判
70歳以上の生活保護利用者の老齢加算・月額1万6千円を削減したのは、憲法25条の生存権を侵害するとして、取り消しを求めて06年

に提訴した裁判。原告3人が提訴。途中、1人が死亡し、2人が最高裁までたたかいました。1月19日に最高裁は、上告棄却・不受理の決定を行いました。

医療・くらし改善へ

県予算案 県民運動、共産党の論戦反映

新潟県は18日、1兆3016億円の2015年度一般会計予算案を発表しました。「夢おこし政策プラン」に沿って編成しており、同プランの基本理念は、新自由主義による「構造改革」路線をそのまま県政運営に持ち込むもので、基本的な問題を抱えています。

一方、日本共産党の竹島良子県議の論戦や県民運動で、多くの県民要求が施策に反映されました。

知事は、「3次救急は県が責任を持つが、2次救急は市町村の責任」として、各地で生じている医師不足や診療体制の不足に対して関心を示してきました。しかし、住民を巻き込んだ県内各地の医療体制後退を許さない運動や、県議会質問を通じて、2次医療圏域ごとの課題を県が

主導で検討する方向に変化してきました。

今回、具体的な施策として、医師招へい等総合対策事業の予算が大幅に増額され、臨床研修医奨学金貸与事業が拡充されることも、若手医師の確保定着・促進事業などの新規事業が盛り込まれました。

竹島県議が繰り返し指摘し求めてきた、産科医と精神科医の不足の問題では、特定診療科医師確保対策事業が盛り込まれました。看護師不足解消にむけ、看護職員就業支援などの事業が拡充されました。地域医療の確保で、ドクターヘリの複数機導入に向けた予算が盛り込まれました。

地域経済活性化では、地場産業振興計画策定補助金や地場産業強化推進事業補助金が盛り込まれました。

教育では、小・中学校のすべての学年で少人数学級が実現します。問題点として、新潟県は全国一のコメ農業県でありながら、農家は米価暴落と安倍農政の交付金半減によって、農業を続けられるかどうかの深刻な状況にも関わらず、これを直接支援する施策はありません。

産業政策も外部のみで、相変わらずの企業誘致に固執しています。子ども医療費助成事業の県制度は、入院小学校卒業まで、通院3歳未満の全国最下位です。国保料や介護保険料の負担増に県独自の対策はありません。

【竹島県議の話】安倍政権が、社会保障予算の「自然増削減」路線を復活させ、あらゆる分野での制度改悪・削減に乗り出すとしてい

るとき、自治体がくらしを守る「防波堤」の役割を果たすのかが問われます。予算案の前進面は評価しつつも、構造改革路線の県政持ち込みを許さず、23日から始まる2月定例会で県民のいのち・暮らし第一の予算となるよう全力をあげます。

ビクトリーマップ活用して賃上げを

新潟地区春闘共闘会議が学習会

新潟地区春闘共闘会議と阿賀地区労連は1月31日、新潟市で2015年春闘学習会を開きました。今回のテーマは「新潟版ビクトリーマップ、内部留保と賃上げ」です。

講演したのは、全労連・労働運動総合研究所(労働総研)理事で、新潟市在住の上野邦雄さん。上野さんは、退職まで全経済産業労組副委員長、国公労連中

央執行員などを務め、ビクトリーマップを活用した経験を紹介。新潟駅や繁華街の古町周辺に所在する大企業36社の内部留保と、全従業員に月2万円の賃上げをするのに必要な内部留保の取り崩し率を試算した新潟版ビクトリーマップを作成したことを話しました。

上野さんは、たとえば県内大手の第四銀行は内部留保が2040億円で、そのわずか0.54%の取り崩しで全職員3734人に月2万円の賃上げが可能だと指摘。大企業の内部留保が285兆円に達し、「おこぼれ頂戴」のトリクルダウン理論が破たんしている今こそ、各地域版ビクトリーマップピラを作成・活用し、企業から地域に内需拡大の世論と春闘を広げ、大幅賃上げを勝ち取ってほしいと強調しました。

交流では「長野から参加したが、自分の企業経営者だけがたたく相手だと思っていたが、地域にも広がって活動していく意義が分かった。広げていきたい」、「年金切り下げの不服審査請求を棄却され、裁判でたたかうことを決意した」(年金者組合)、「劣悪な非正規の労働条件改善でアンケートに取り組み、組合に加入がなかった。組織は小さいがみんなの要求で春闘をたたきたい」(自治労連公務公共一般)などと発言しました。

講演した比嘉努沖繩民医連事務局長は、終戦末期の沖繩戦の悲劇から始まり、米軍基地反対の沖繩住民の苦闘の歴史を語り、沖繩知事選や総選挙で基地反対の「オール沖繩」勢力が圧勝したことを強調。 「社会保障をよくするためにも平和が前提です」と訴えました。

トピックが行われ、映画の及川善弘監督は「沖繩の気持ち」を伝えるのが映画の役割。登場人物には沖繩の思いが託されている。映画館に出かけて、自分に置き換えてみて、行動にかなげてほしい」と訴えました。

「ひまわり」は、3月21日から4月3日まで、新潟シネウインドで上映されます。



ビクトリーマップの重要性を強調する上野さん=1月31日、新潟市

沖繩基地の現状考えよう

民医連が映画観る平和のつどい

新潟民医連などからなる映画「ひまわり」を観る会は14日、新潟市内で平和のつどいを開き、若い職員ら115人が参加しました。



沖繩基地と平和を考えよう つどい=14日、新潟市

「ひまわり」は沖繩を忘れないあの日の空を、1959年の沖繩・宮森小学校への米軍ジェット機墜落事件と、04年の沖繩国際大学米軍大

社会医療法人 新潟勤労者医療協会

理事長・高橋常彦	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250 (24) 5170
下越病院	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250-22-4711
舟江診療所	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
介護老人保健施設入舟	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
沼垂診療所	〒950-0075	新潟市中央区沼垂東6-4-12	Tel.025-244-0116
坂井輪診療所	〒950-2054	新潟市西区寺尾東3-8-35	Tel.025-269-6630
おぎの里	〒956-0012	新潟市秋葉区荻野町3-8	Tel.0250-25-3071
ときわ診療所	〒950-0036	新潟市東区空港西1-15-17	Tel.025-274-2714
かえつクリニック	〒956-0836	新潟市秋葉区田家2-1-30	Tel.0250-22-5888
下越鍼灸施術所	〒956-0837	新潟市秋葉区吉岡町18-26	Tel.0250-23-3347
かえつ歯科	〒956-0831	新潟市秋葉区中沢町1-25	Tel.0250-25-5510

地方政治と住民運動の専門誌

議会と自治体

月刊

（愛と勇気を）
武器でなく学校を
戦争でなく教育を
このマアラさんの命をかけた訴えを、人類はみんな学ばなければならない。（高橋シズ）